

新版

No.1  
2017 秋号

天霧城の強さを探る  
日本の城の原風景

空海の里を  
再発見する  
特集  
山城の系譜

新  
散策

# 善通寺

ふる里の風景を  
探る





## 天霧城跡（頂部）

# 国史跡 あまぎりじょう 天霧城跡

## 善通寺合戦の地

### 落城しなかった山城

応仁の乱後、阿波の細川氏が幕府管領になると同じ阿波の三好氏がその家臣になります。その後、三好氏は度重なる細川氏の内紛に乗じて畿内に勢力を強め、その戦力補給のために四国統治を強化しました。三好氏は讃岐の十河氏と姻戚を結んで拠点とし、讃岐の武将たちに服従を促しますが、天霧城主の香川氏がこれを拒んだため、その報復として西讃岐に侵攻しました。寡兵の香川軍は天霧城に籠城し、一方の三好軍

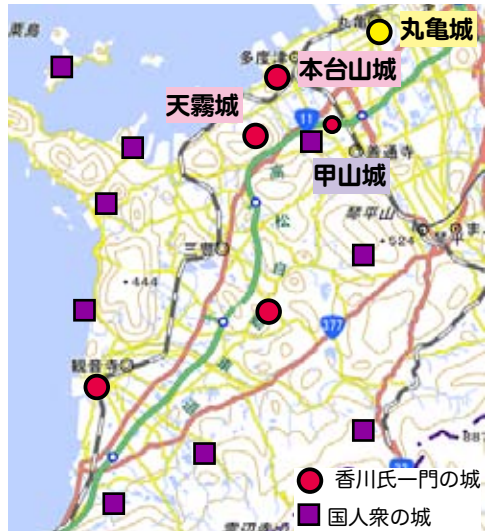
は大勢の讃岐武士を従えて善通寺に陣を張りました（善通寺合戦）。籠城兵の戦意喪失をねらい、空海が建立した善通寺を占拠し、眼下で支城の甲山城を落城させましたが、天霧城は落城しませんでした。この合戦で天霧城が堅固な要害であることが実証されたものの、善通寺の伽藍が灰燼に帰してしまいました。こうした山城の防備は、後に丸亀城などの近世城郭に取り入れられました。ありふれた里山に見える天霧山を巡り、天霧城の強さの秘密を探ります。

# 応仁の乱、細川四天王の一人 香川氏の詰めの城

天霧城主の香川氏は、南北朝時代に細川頼之<sup>よりゆき</sup>に従って讃岐に来た関東武将です。この細川氏と讃岐の関わりは室町幕府の創立から始まります。細川氏は、主君の足利尊氏<sup>あしかがたかうじ</sup>が後醍醐天皇軍から京を奪回すべく九州から進軍する際に、四国の武将の統率に成功します。室町幕府が開かれると、細川一門<sup>きやうじ</sup>は四国の守護になりました。一門の細川清氏が幕府に反旗を翻すと、従兄弟の細川頼之<sup>かんのし</sup>がこれを讃岐で討ち（白峯合戦）、後に幕府の管領（将軍の補佐）に就任します。家臣の香川氏は白峯合戦の軍功によって西讃岐の守護代になり、多度津の本台山に居館を置いて天霧山に天霧城を築きました。細川氏は讃岐と土佐を基盤に管領を世襲し、子孫の細川勝元が起こした応仁の乱（1467-77年）では、香川氏は細川四天王の一人として活躍しました。戦国時代、阿波の三好氏が西讃に進軍しますが、香川氏は天霧城に籠り、これを退けました（善通寺合戦）。その後、織田氏や長宗我部氏などの有力勢力を渡り歩くものの、豊臣秀吉の四国征伐で改易になりました。



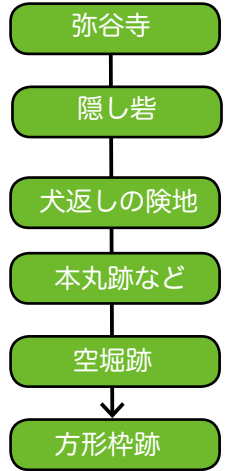
善通寺合戦の風景



香川氏とその主な家臣の城の分布と丸亀城



犬返しの険地（頂部より下方を望む）



## 強さの秘密を探る

# 天霧城跡（戦国山城）

### 侵入を阻む急崖

戦国の山城は、籠城戦に備えて敵の攻撃を受けにくくする構造や水と兵糧を確保する場を備えていました。主郭（本丸）は両側が急崖になった山の尾根に築かれ、通路となる大手の尾根筋には櫓や兵を配した郭を連ねて（連郭）敵の侵攻に備えました。郭間には切堀（空堀）を配し、有事には堀にかかる橋を落として敵の侵入を阻みました。天霧城では、背後の急峻な崖（犬返しの険地）を搦手（裏口）とし、敵の侵入を困難にしています。籠城に必要な水は本丸の裏手の井戸、搦手先の池窪の井戸、弥谷寺の井戸などから調達しました。



### 隠し砦

天霧城の搦手には隠し砦がありました。山道脇の小山の背後が掘削され、櫓が置かれました。籠城兵はここに隠れ、搦手から侵入した敵を背後から攻撃することができます。



### 郭跡

そそり立つ急崖の尾根には<sup>くろわ</sup>郭を設け、<sup>やくら</sup>櫓などの建物に兵を配備しました。主郭は郭群の最奥部にあり、侵入した敵兵はいくつもの郭を突破しなければなりません。大きな郭は石塁で強化されました。

### 空堀

主要な郭の端には、敵兵の侵入を阻む切堀（空堀）が造られました。普段はここに架かる橋を通りますが、有事には橋を落として敵兵の侵攻を阻みます。堀切を登る敵兵を上から攻撃できます。



**本台山**  
(現 桃陵公園 多度津町)

**香川の山城**

香川県には太古より山城が築かれてきました。近世城郭に大きな影響を与えた戦国山城が各地の山で見られます。

# 独自の道を歩んだ日本の城の原風景

## 山城の系譜

### 香川の山城の系譜

小高い丘に聳える日本の城は、壮麗で独特の美しさを誇り、海外の愛好家からも高く評価されていますが、その多くは近世に築城されたものです。実は、こうした日本の城のルーツは中世の戦国山城に遡ることができます。この流れは、大陸の影響を受けた古代山城とは異なるものでした。

最近、高松で古代山城の屋島城が発掘されました。これは、663年に百濟復興をかけた白村江の戦いで大敗を喫した中大兄皇子が、唐・新羅軍の侵攻に備えて渡来人に造らせたという伝説の城です。屋島は瀬戸内海の中でも備讃瀬戸の東限に位置し、畿内

に抜ける海上ルートの要衝で、唐・新羅軍の大船団を迎え撃つには重要な場所でした。全長7kmにおよぶ屋島城の城壁は、ほとんどが自然の断崖が利用され、人工的に築かれた城壁は僅か一割程度です(写真下)。まさに天然の要害ですが、中世の山城とは異なり、頂部に大勢の人々を収容で





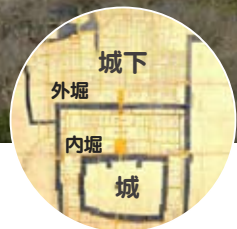
仲村城跡の土塁(武士の館)

想像図



内堀

丸亀城の城下町(総構え)



きる平坦地があります。

平安末期、貴族政治が終焉を迎えると、武士が台頭します。この武士の館跡が多度津・善通寺線沿いにあります。仲村城跡は源氏所属の行司貞房の居館(城)でした。鎌倉時代には、堀を深く、土塁を高くして二町四方の平城に整備しました。戦国時代に甲山城が築かれると、廃城になりました。

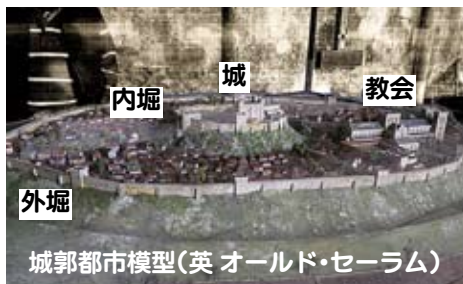
南北朝時代、幕府に謀反を起こした細川清氏を白峯合戦で破った細川頼之が守護に任命されます。細川氏の家臣香川氏は、その戦功により三野・多度・豊田の三郡を賜り、多度津の本台山に居館を構え、天霧山に詰め、天霧城を築きました。さらに周囲を甲山城などの支城で固めました。天霧城は、阿波の三好氏との攻城戦(善通寺合戦)でも落城しませんでした。

こうした戦国の山城は、後醍醐天皇に仕えた楠木正成の千早城に倣って全国で築城されました。正成軍は三方を深い谷に囲まれた千早城に十分な兵糧をもって籠もり、寡兵でも奇策によって鎌倉幕府の大軍を撃破しました。日本のふつうの山の地形には、城の機能があつたのです。

### 総構えと城郭都市

大軍との攻城戦に有効だった戦国山城は、太平の世になると小高い丘に築かれた統治の城へと変わりました。丸亀城のように、自然地形ではなく人工構造物を防備の要としたため、壮麗に仕上げることができました。また、街全体を複数の掘で囲み、その内外に家臣や町民を住まわせる「総構え」という一種の城郭都市が築かれました。

欧州や中国では、早くから城壁で街全体を防備する城郭都市を築き、異民族の侵入や虐殺に備えました。イギリスでは、紀元前からヒルフォートと呼ばれる土塁による逃げ込みの城があり、ローマ軍が征服するとその上に城壁を築き、ノルマン人の征服後には城郭都市ができました(写真下)。



城郭都市模型(英 オールド・セーラム)

# 戦国山城が生んだ防備の要

天然の要害と人工の要害



## 天然から人工へ

壮麗で威厳に満ちた近世城郭は、自然地形ではなく、人工構造物を防備の要としています。天霧城に見られるような難攻不落の戦国山城は、敵兵を寄せつけない急峻な崖を防備の要としました。通行可能な尾根筋には数多くの郭を置いて敵兵の侵入を阻みました。一方、小さな丘に築城された近世城郭では、急峻な崖の代わりにそそり立つ石垣と掘りで敵兵を遠ざけました。

雨水に弱いという土塁を補完するために戦国山城の主要な郭は石塁によって強化されました。石積み技術の発達とともに、

石塁は石垣として高くかつ垂直に積み上げられ、丸亀城では総高で60mを超す石垣が城の威厳を示しています。

また、戦国山城の尾根筋に配された郭は、多数の小さな郭<sup>れんかく</sup>が連なる連郭が主流でしたが、急崖のない近世城郭では敵兵の侵入を惑わす様々な工夫が施されました。亀山と





## 戦国山城と近世平山城

戦国山城は自然の峻険な地形を利用して築城され、山自体が城であり、天然の要害とも言われてきました。小高い丘に築かれた近世平山城では、防御に利用できる地形が少ないため、人工的に防御設備がつけられました。そのルーツは、戦国山城の地形や防備にあります。



枅形（丸亀城）



輪郭（丸亀城）



本丸の石垣がつくる絶壁（丸亀城）

いう小丘に築かれた丸亀城では、本丸を守るように二の丸や三の丸を置き（輪郭式）、侵入する敵兵を上から攻撃しやすくするため、本丸に到達するには各郭をらせん状にめぐる構造になっています（図上黄点線）。また、侵入した敵兵を閉じ込める仕掛けは虎口の枅形（写真上）で継承されています。



威厳漂う丸亀城（丸亀港より）

## 見せる威厳の城

戦国の山城は籠城のための実践の城でしたが、近世城郭は家臣や領民を統治するための威厳の城と言われます。そのため、壮麗な石垣の上に美しい天守や櫓を連立させました。丸亀城などでは、上方に向かうほど石垣が垂直になる「扇の勾配」という石垣の曲線美や入れ違いの均整のとれた三段の石垣がつくる「一二三檀」などを誇ります。また、姫路城のように大小の天守を繋げた連立天守をあげることで、全方位から鑑賞できる建築美を誇るものもあります。



郭



石塁



狭間

# 風景を楽しむまめ知識

## 城の防備

### 石垣

元来、城は土塁で囲まれたものを指していましたが、土塁が風雨に弱いため石塁によってこれを補強しました。これが城の石垣へと発展します。石垣は銃火器に対して耐久性が高く、また地盤がしっかりするため、櫓を石垣の端まで寄せることが可能になりました。石垣の端にある石落とし（写真右下）はこれを利用したものです。

石垣の積み方は整形の度合いによって呼称が異なり、自然石をそのまま積んだのづらぶ野面積み、石の角を少し叩き、積み石の端を合わせる打ち込みはぎ、石と石の歯口を密着させて目地に隙間をつくらない切り込みはぎの三種類があります。ほとんどの石

垣は打ち込みはぎによるものですが、虎口枡形や扇の勾配など石垣の美しさや高さが必要な石垣は切り込みはぎで積まれます。



狭間（丸亀城大手門）



石落とし（丸亀城）

### さま 狭間

狭間は日本の城の天守や櫓の壁面、塀などに空けられた防御用の穴や窓のことを言います。四角、三角、丸形などがあり、そこから鉄砲や弓矢で敵を攻撃しました。弓矢の狭間は、射やすいように縦長の穴でした。また、櫓の石落としも同様の用途に使われ、狭間の一種とされます。こちらは蓋を開閉して利用します。狭間は、銃火器の発達とともに、漆喰の厚い壁で防御しながら敵を攻撃する目的で発展しました。



切り込みはぎ

打ち込みはぎ

野面積み

扇の勾配

## 城の形、星形要塞

15世紀、フランス軍の火砲に悩まされたイタリア軍は、城壁を低くし、その周りを土塁で固めることで火砲に対抗しようとしてきました。城壁を低くしたことで歩兵の強襲に弱くなったため、全方位攻撃に有利なダイヤモンド型の陵堡をもった城、星形要塞が築城されました。それまでの円形の塔には敵が隠れる死角がありましたが、先端を尖らせることでこれに対抗しました。

日本では函館の五稜郭が有名ですが、世界遺産になったものもあります。デンマー

クのクロンボウ城は、バルト海の海峡通行税を徴収する関所として築城されました。その後、王宮としての機能が追加され、大規模な建造物になり、シェークスピアの戯曲ハムレットの舞台として名を馳せます。重要な時代を例証する建築物として、2000年に世界遺産に登録されました。



クロンボウ城（世界遺産）



善通寺五岳の里

## 市民集いの丘公園

入場無料。開園時間は4～6月午前9時～午後5時、7～9月午前9時～午後6時、10～3月午前9時～午後5時。休園日は毎週火曜日と12月28日～1月4日。電話：0877-63-8753。

## 身近な公園の景

### 現代の郭か？公園のテラス

戦国山城のように、山の急斜面は平坦に掘削されて様々な用途に利用されます。農村景観の美を醸し出す千枚田や果樹園などの農業生産地をはじめ、斜面を利用した公園もあります。善通寺市の市民集いの丘公園もその一つで、小さな子どもからお年寄りまで楽しめる施設や園芸相談を始め、季節のイベントがたくさん催されています。

### 編集後記

中世の山城は

中世

中世

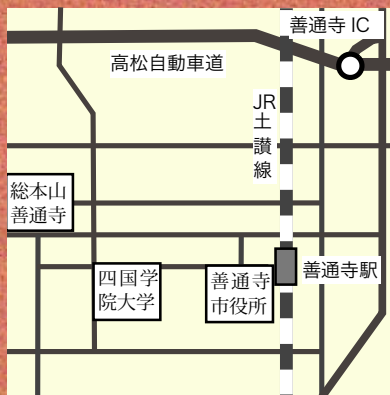
中世

中世



アプリが復元した屋島城の城門

アクセス



バック・ナンバーは左のエピソード「散策 善通寺」より閲覧できます。  
<http://shigakuweb.jimdo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学 空海カフェ

(shigakuweb@yahoo.co.jp)

制作協力

善通寺市役所土木都市計画課

(Tel. 63-6314)

参考文献

みちくぐり遍路 2001